

報道関係各位

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アフガニスタン復興支援

**紛争と貧困にあえぐ子どもたちに教育を**

～バーミヤン州にて1億4千万円規模の大型事業を開始～

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子どもたちのための民間の国際援助団体(NGO)の社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（理事長：上野昌也／理事・事務局長：渋谷弘延、以下 SCJ）は、8月10日より、アフガニスタン中部のバーミヤン州にて、1億4千万円を投じた教育復興支援事業を開始しました。

アフガニスタンは、人口の70%が貧困下にある世界で最も貧しい国の一つです。2001年、タリバン政権の崩壊により、20年以上続いた内戦が終結を迎えましたが、この期間に学校施設を含むインフラ設備は壊滅的な打撃を受けました。今日においても、不安定な治安状況が続く中、地震や干ばつ、洪水などの自然災害の影響もあり、復興への道のりは困難を極めています。

子どもたちを取り巻く状況は深刻です。栄養や衛生、けがの処置などに関する知識の不足から、子どもの死亡や疾病が助長されており、5歳未満の子どもの死亡率は4人に1人（日本の約64倍に相当）にのぼります。教育分野においても、教室不足の問題から、夏は暑く冬は極寒を迎える中で多くの子どもたちが屋外での授業を余儀なくされるなど、様々な問題を抱えています。

こうした状況を受け、SCJは、ジャパン・プラットフォームからの約1億4千万円の助成により、子どもたちの学習環境の改善に向けた新たな取り組みを始めました。これは今年6月1日に岡田外務大臣が表明した、アフガニスタン・パキスタンに対する15億円の支援策の一環です。学校校舎の増設といったハード面はもちろん、教員研修や就学前教育、保健教育といったソフト面を含む包括的な事業を実施し、紛争と貧困の影響下にある子どもたちが、教育を通して未来への希望を持ち続けることができるよう活動を進めていきます。

<事業概要（詳細は次頁参照）>

- ◆支援地：中央高地バーミヤン州
- ◆実施期間：2010年8月10日～2011年12月31日
- ◆予算規模：約1億4千万円  
（ジャパン・プラットフォームからの助成金）
- ◆対象人数：子ども 約3,500人  
子どもを取り巻く大人 約1,500人
- ◆主な内容：学校校舎増設・増築、教員研修、  
就学前教育、保健教育



SCJによる過去の教育支援の様子

アフガニスタン事業担当へのご取材も承ります。広報担当者までご連絡ください。

■セーブ・ザ・チルドレンとは

1919年設立。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会(UN ECOSOC)のNGO最高資格である総合諮問資格(General Consultative Status)を取得しています。現在、世界で29カ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120カ国以上で活動を展開しています。

## 【活動内容詳細】

### 活動① 小学校校舎の建設・増築

対象となる4校は、生徒総数2,246名に対して、教室数が19室しか存在せず、教室内が過密状態になっている上、およそ680名の生徒が屋外での授業を強いられています。これらの学校に対し、校舎の建設・増築を実施し、各学年に最低1教室を設け、教室当たりの生徒数を平均40人にまで引き下げることを目指します。また、劣悪な衛生環境を改善するために、これらの学校においてトイレと井戸の設置も併せて実施します。



屋外で授業を受ける子どもたち

### 活動② 教員研修

教員による校内暴力や体罰は、子どもたちを学校教育から遠ざける要因になります。暴力・体罰に頼らない生徒指導が行われるよう、教員の能力向上研修を行います。また、子ども参加型の学校運営を目指し、学校長や州当局の職員に対する研修も行います。

### 活動③ 就学前教育

バーミヤン州では、小学生のうち女子7割と男子5割が5年生に達する前にドロップアウトしています。これは、幼児期の就学前教育の機会がなく、集団の環境に不慣れなまま小学校教育に突入していることが大きく関係しています。本事業では、子どもたちが集団生活や遊びを通じて、思考力や新しい環境への適応力を養い、小学校教育に備えられるよう、幼児(4~6歳)計600人を対象に、就学前教室を開きます。

### 活動④ 子ども保健教育

バーミヤン州の公立学校では保健科目がカリキュラムに含まれていません。このため、健康的に暮らすための保健・栄養・衛生に関する知識を、子どもも大人も十分に持ち合わせていません。このことは、子どもの下痢性疾患や脱水症、肺炎を誘発し、結果的に子どもの死亡や疾病を助長する要因となっています。本事業では、計600人(6~18歳)を対象に、栄養、応急処置、下痢処方、寄生虫・ハエ媒体の病気予防、咳と風邪、手洗い、水、予防接種に関する保健教育を実施します。この事業では、子どもボランティア120名を育成し、年長の子どもの年下の子どもに対して教える手法(チャイルド・トゥ・チャイルド)により、子ども同士が主体的に教え学び合う機会を作ります。

#### (参考) アフガニスタンにおけるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動

2001年にアフガニスタン北部サリプル州での緊急食糧支援を開始し、2002年よりカブール、バーミヤン、およびロガールの3州における教育復興を目的として、基礎教育、就学前教育、教員研修・女性教員養成、女子教育の推進、保健衛生教育など長期的視野に立った子ども支援に力を注いでいます。